

活動別評価指標の検討（活動1）

| | | | | |
|-----------|-----|--|--|----------|
| 活動名 | | 情報共有の場、学びの場の設営 | | |
| 活動課題 | | 行政頼みの地域運営ではなく、自分たちの地域を自分たちで運営する仕組みへの転換。「私たちが住み続けたい地域とは?」「そのために自分ができることは?」など自分ごととして関わる仲間を増やす。 | | |
| 活動内容 | | 参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催 | | |
| 活動成果予想 | | 関係人口の増加と人的ネットワークの構築 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、実験プロジェクトの提案 | | |
| 地域循環共生圏貢献 | | 【環境への貢献】 | 【社会への貢献】 | 【経済への貢献】 |
| | | | 地域のつながりが強化、関係者のネットワークが拡大 参加者の資質の向上、課題と将来ビジョンの共有・我がこと化、地域活動の提案 | |
| 評価指標 1 | 指標案 | | 参加者数 | |
| 評価指標 2 | 指標案 | | 課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数 | |
| 評価指標 3 | 指標案 | | | |
| 採用指標（案） | | 情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件） | | |

「活動1 情報共有の場、学びの場の設営」の評価指標のSDGs指標物語

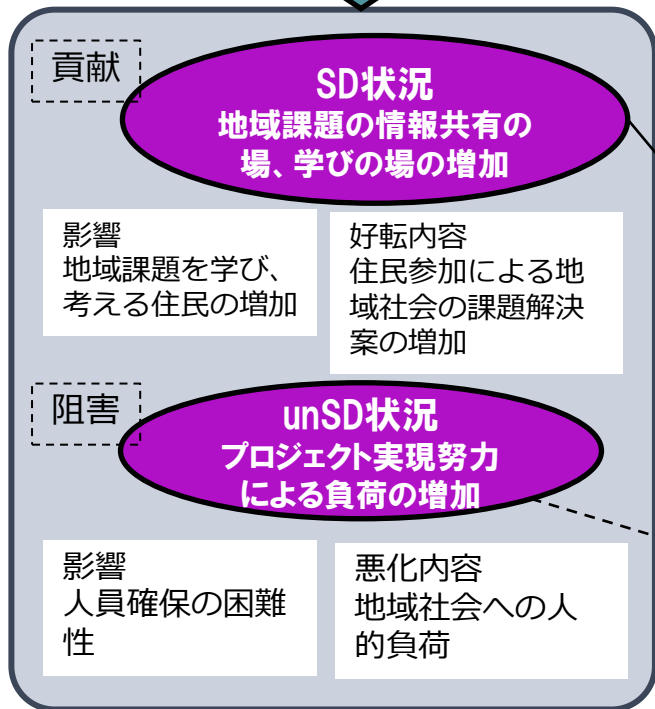
| | |
|-----------------|---|
| 活動1 | 情報共有の場、学びの場の設営 |
| 貢献分野 | 社会 |
| 選定指標 | 情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件） |
| Local SDGs指標の概説 | 情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）は「ゴール4 質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）は地域の「住民参加増加と地域社会の課題解決案の増加」への貢献度を表す。 |
| SDGs への関連性 | 情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）が増加すると、「地域住民の課題解決スキルの向上」により、【ターゲット4.4（略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の課題解決能力の向上」により、【ターゲット11.3（略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。 |
| 地域の取組との関連性 | 情報共有や学びの場の参加人数（人）、課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数（件）のために『情報共有の場、学びの場の設営』を行えば、『地域課題の情報共有の場、学びの場の増加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『地域課題を学び、考える住民の増加』の影響により『住民参加による地域社会の課題解決案の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。 |

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

地域のSDGsの取組 【活動1：情報共有の場、学びの場の設営】

参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な芋井地区に関する講座の開催

社会貢献



Local SDGs指標

情報共有や学びの場の参加人数(人)
 課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数(件)

住民参加増加と地域社会の課題解決案の増加

SDGsの体系



ターゲット

4.4(略)技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
 地域住民の課題解決スキルの向上

11.3(略)包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
 地域の課題解決能力の向上

17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
 地域内外の関係者のネットワーク形成拡大



ゴール4 質の高い教育をみんなに



ゴール11 住み続けられるまちづくりを



ゴール11 住み続けられるまちづくりを



ゴール11 住み続けられるまちづくりを

活動別評価指標の検討（活動2）

| | | | | |
|-----------|-----|--|--|--|
| 活動名 | | 実験の場の設営①再エネ活用 | | |
| 活動課題 | | 家庭での化石燃料由来のエネルギーに頼る生活スタイル（自動車での移動、系統電力の利用など）が気候変動の原因ともなっている。芋井地区から太陽光やバイオマスなど再生可能エネルギーを活用したオフグリッド生活をすこしずつ取り入れる家庭を増やす | | |
| 活動内容 | | 持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進 | | |
| 活動成果予想 | | 導入可能なオフグリッド再エネシステム講座、設置実験、効果及び導入可能性評価、活用実績 | | |
| 地域循環共生圏貢献 | | 【環境への貢献】 | 【社会への貢献】 | 【経済への貢献】 |
| | | 再エネの実験的導入による創エネ | オフグリッド再エネ活用による防災力の強化、再エネ実験に伴う専門家や地区外の関係人口のネットワーク拡大 | プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入、再エネによる域外エネルギー費流出防止 |
| 評価指標 1 | 指標案 | 再エネ実験数、設置数 | 再エネ実験関係者数 | 導入外資（補助金）額 |
| 評価指標 2 | 指標案 | 活用した創エネルギー量 (kWh) | 関係者への再エネ設置の波及数 | 創エネルギー費（代替による換算） |
| 評価指標 3 | 指標案 | 二酸化炭素削減量 (CO2-kg) | | |
| 採用指標（案） | | 再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh） | 実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所） | |

「活動2 実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-1

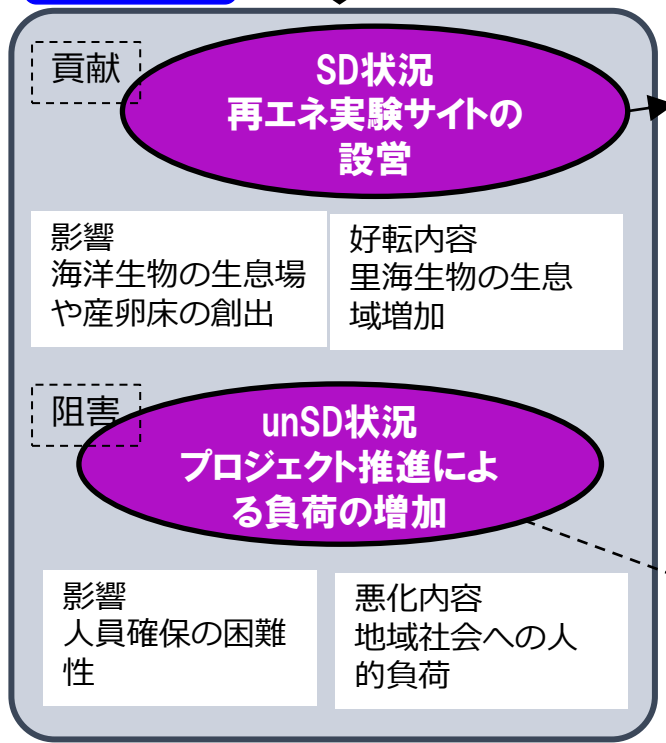
| | |
|-----------------|--|
| 活動1 | 実験の場の設営①再エネ活用 |
| 貢献分野 | 環境 |
| 選定指標 | 再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh） |
| Local SDGs指標の概説 | 再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）は「ゴール13気候変動に具体的な対策を、7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）は地域の「再エネ実験の地域社会での共有、クリーンエネルギー活用実績」への貢献度を表す。 |
| SDGs への関連性 | 再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）が増加すると、「防災、温暖化対策に貢献する再エネ実験共有者の増加」により、【ターゲット13.3気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。】の達成に貢献する。また、「再エネ実験によるクリーンエネルギー活用実績の増加」から、【指標7.2.1最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率】に影響があり、【ターゲット7.2（略）再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。】の達成に貢献する。 |
| 地域の取組との関連性 | 再エネ実験設置数（ヶ所）、活用した再エネ量（kWh）のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験実績の増加』の影響により『地域での再エネ実績共有とエネルギー活用実績の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。 |

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

地域のSDGsの取組 【活動2：実験の場の設営①再エネ活用】

持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験的プロジェクトの推進

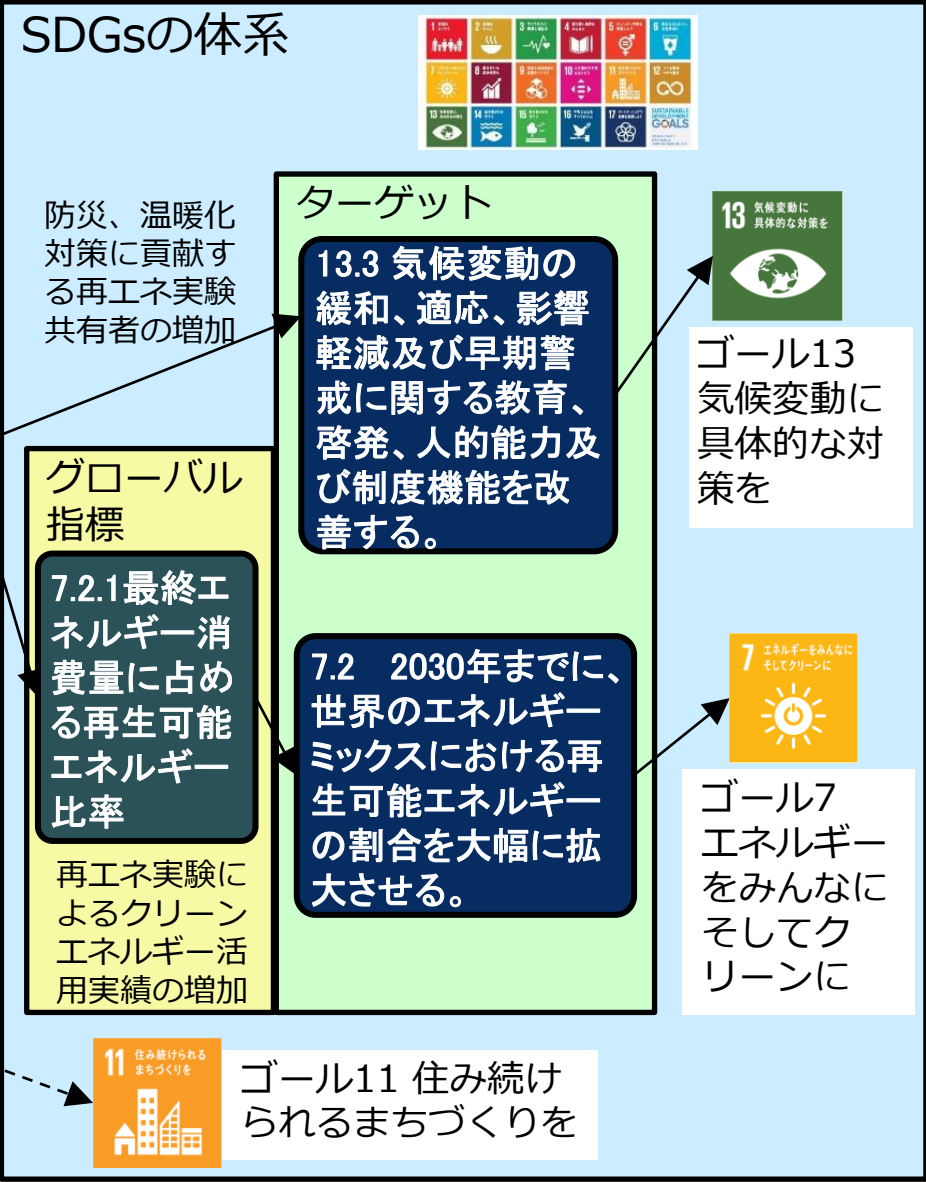
環境貢献



Local SDGs指標

再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)

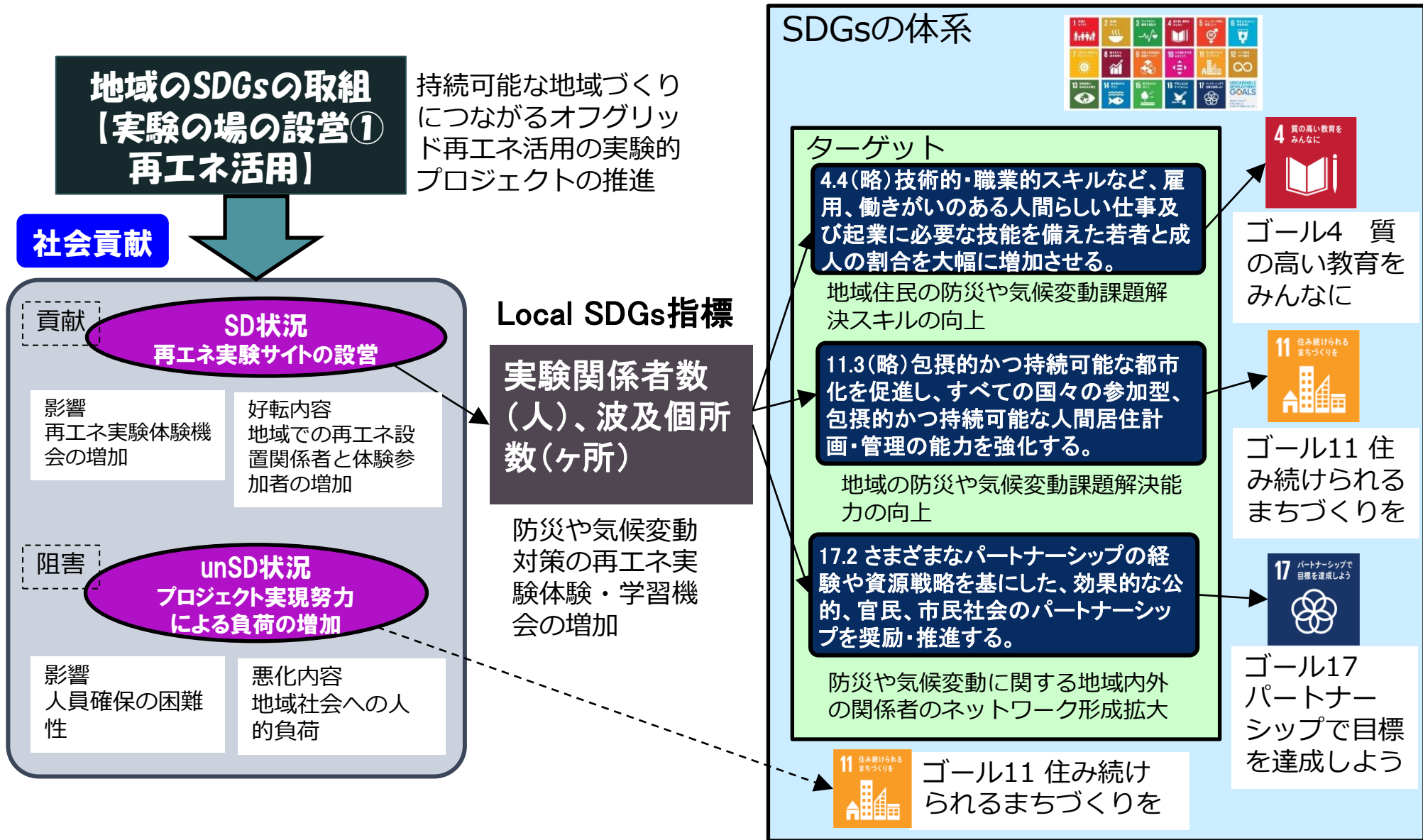
再エネ実験の地域社会での共有、クリーンエネルギー活用実績



「活動2 実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-2

| | |
|-----------------|---|
| 活動1 | 実験の場の設営①再エネ活用 |
| 貢献分野 | 社会 |
| 選定指標 | 実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所） |
| Local SDGs指標の概説 | 実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）は地域の「防災や気候変動対策の再エネ実験体験・学習機会の増加」への貢献度を表す。 |
| SDGsへの関連性 | 実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）が増加すると、「地域住民の防災や気候変動課題解決スキルの向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の防災や気候変動課題解決能力の向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「防災や気候変動に関する地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」から、【指標】に影響があり、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。 |
| 地域の取組との関連性 | 実験関係者数（人）、波及個所数（ヶ所）のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験体験機会の増加』の影響により『地域での再エネ設置関係者と体験参加者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。 |

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



活動別評価指標の検討（活動3）

| | | | | |
|-----------|-----|---|---|---|
| 活動名 | | 実験の場の設営②草刈りバスターズ | | |
| 活動課題 | | 人口減少や高齢化が進み、公道や公園などの動力刈払機による草刈り作業の担い手が少なくなっており、生活や地区環境に支障をきたしつつある。地区外の関係人口を増やして、担い手不足を解決とすると同時に、地区外との交流増により地区に活気を取り戻す | | |
| 活動内容 | | 持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進 | | |
| 活動成果予想 | | 草刈りネットワークシステムの構築と実験的運用、及び実験的草刈り実績 | | |
| 地域循環共生圏貢献 | | 【環境への貢献】 | 【社会への貢献】 | 【経済への貢献】 |
| | | 草刈り実績による里山の持続性強化 | 草刈りネットワークシステム構築と運用による関係者の増加と域外ネットワークの拡大 | プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入 アクティビティ化による外来者へのサービス提供 |
| 評価指標 1 | 指標案 | 実験プロジェクト推進による草刈り面積 | 草刈りバスターズ受講者数 | 導入外資（補助金）額 |
| 評価指標 2 | 指標案 | | 草刈イベント参加者数 | アクティビティ化による関連サービス提供売上 |
| 評価指標 3 | 指標案 | | | |
| 採用指標（案） | | 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m） | 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人） | アクティビティ化による関連サービス提供売上（円） |

「活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-1

| | |
|-----------------|---|
| 活動1 | 実験の場の設営②草刈りバスターズ |
| 貢献分野 | 環境 |
| 選定指標 | 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m） |
| Local SDGs指標の概説 | 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は「ゴール15陸の豊かさを守ろう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は地域の「農地周辺環境の陸域生態系維持」への貢献度を表す。 |
| SDGsへの関連性 | 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）が増加すると、「管理された農地周辺・里地の増加」により、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。 |
| 地域の取組との関連性 | 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り面積の増加』の影響により『管理された農地周辺・里地の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。 |

SDGs指標物語*チャート

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集

地域のSDGsの取組 【実験の場の設営②】 草刈りバスターズ

持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進

環境貢献



Local SDGs指標

実験プロジェクト推進による
草刈り面積
(平方m)

農地周辺環境の
陸域生態系維持

SDGsの体系



ターゲット

15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。



ゴール15
陸の豊かさも守ろう

管理された農地周辺・里地の増加

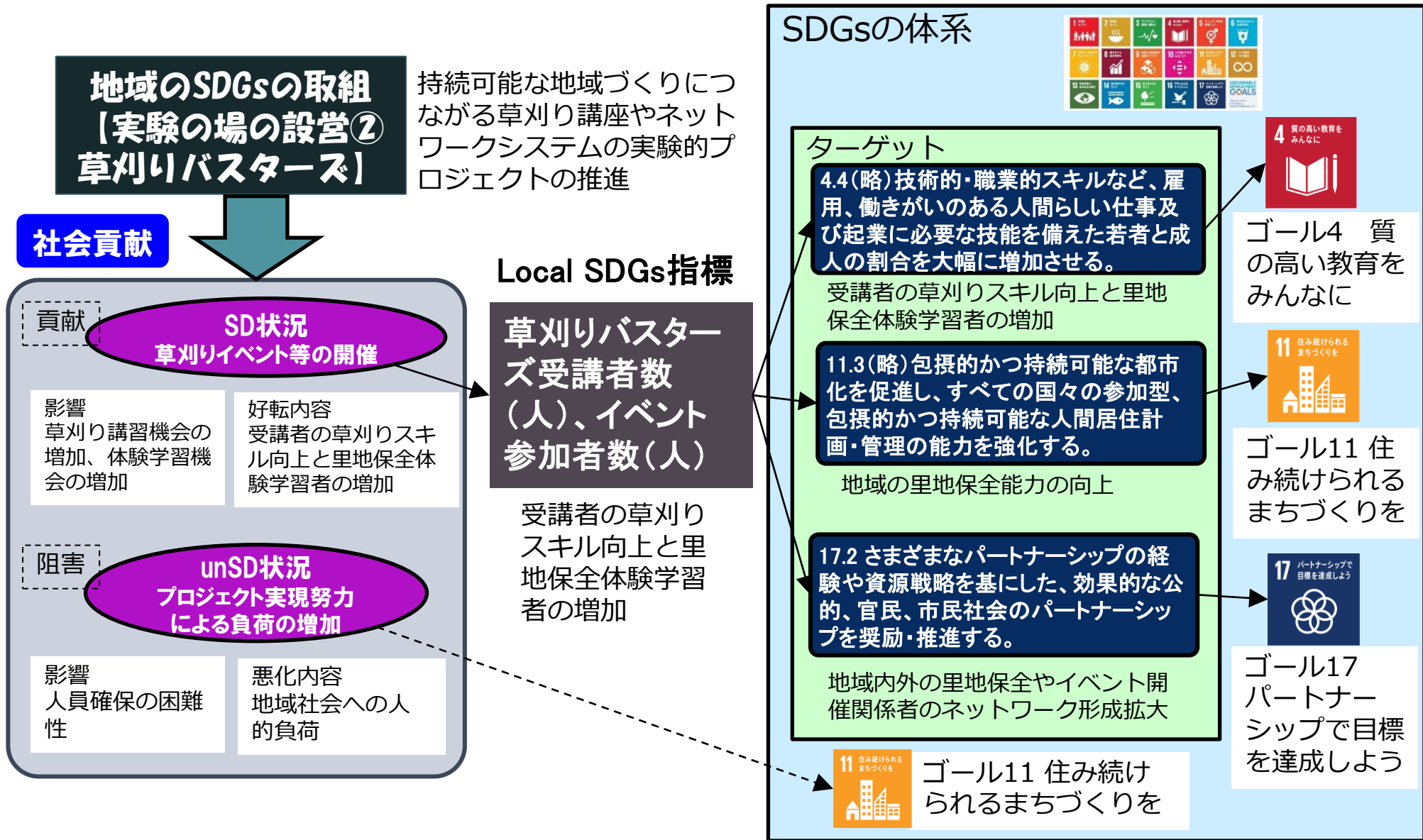


ゴール11 住み続けられるまちづくりを

「活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-2

| | |
|-----------------|---|
| 活動1 | 実験の場の設営②草刈りバスターズ |
| 貢献分野 | 社会 |
| 選定指標 | 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人） |
| Local SDGs指標の概説 | 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は地域の「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」への貢献度を表す。 |
| SDGs への関連性 | 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）が増加すると、「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」により、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の里地保全能力の向上」により、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の里地保全やイベント開催関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。 |
| 地域の取組との関連性 | 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り講習機会の増加、体験学習機会の増加』の影響により『受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。 |

*「ローカルSDGs取組のための基礎自治体指標データベースの構築」第24回日本環境共生学会学術大会論文集



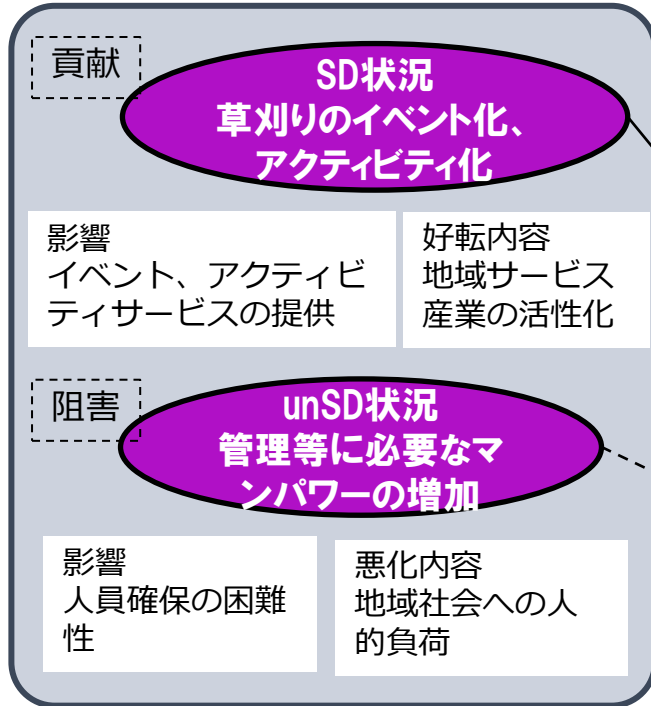
「活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-3

| | |
|-----------------|--|
| 活動1 | 実験の場の設営②草刈りバスターズ |
| 貢献分野 | 経済 |
| 選定指標 | アクティビティ化による関連サービス提供売上（円） |
| Local SDGs指標の概説 | アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は「ゴール8働きがいも経済成長も」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は地域の「地域経済の振興」への貢献度を表す。 |
| SDGs への関連性 | アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）が増加すると、「アクティビティ化による関連サービス提供による地域経済の振興」から、【指標8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP】に影響があり、【ターゲット8.9雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する】の達成に貢献する。 |
| 地域の取組との関連性 | アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りのイベント化、アクティビティ化』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『イベント、アクティビティサービスの提供』の影響により『地域サービス産業の活性化』につながる。一方、「管理等に必要なマンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。 |

地域のSDGsの取組 【実験の場の設営②】 草刈りバスターズ

持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進

経済貢献



Local SDGs指標

アクティビティ化による関連サービス提供売上(円)

地域経済の振興

SDGsの体系



グローバル指標

8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP

アクティビティ化による関連サービス提供による地域経済の振興

ターゲット

8.9 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する



ゴール8 働きがいも経済成長も



ゴール11 住み続けられるまちづくりを